２０００年５月現在

業　績　一　覧
（１９６１－２０００）
吉　田　章　宏
（よしだ　あきひろ）

１９６１年

「子どもとマス・メディア」波多野完治と共著、『総合教育技術』、第16巻6号、小学館、1961年8月、pp. 104-107

１９６２年

「教育心理学方法論に関する一考察:『科学』をめぐって」1962年3月 東京大学大学院人文科学研究科 未公刊修士論文

「パーソナリティ・道徳性・意識」、依田　新と共著、『児童心理学の進歩・１９６２年版』第９章、金子書房、１９６２年6月、ｐｐ．１９５－２０５．

「教育心理学における認識の問題(その１):因子分析法批判」１９６２年１０月、日本教育心理学会第４回総会発表

「諸外国における選択と進路指導」『総合教育技術』、第17巻第10号、小学館、1962年12月、pp. ９９－１０２．

１９６３年

「『道徳』授業過程の心理学的分析ＩＩ」、沢田慶輔、若井邦夫、神保信一、大橋一憲、和田三郎、石塚喜三郎と共著、『教育心理学研究』、第１１巻第１号、１９６３年3月、ｐｐ．１－１７．

「道徳教育と意図の心理学」『児童心理』、第１７巻第３号、金子書房、１９６３年3月、ｐｐ．３３８－３４６

「『道徳』指導過程の研究：指導過程を解明する手がかり」、沢田慶輔と共著、『中学教育』、第８巻第１号、小学館、１９６３年4月、ｐｐ．９８－１０３．

「学力をどう見どうとらえるか：心理学の立場から」、『学習心理』、第４巻第３号、小学館、１９６３年6月、ｐｐ．１３－１７．

「性格・自己・自己概念」、『児童心理学の進歩、1963年版』、依田 新と共著、第12章、金子書房、1963年6月、pp. 210-227.

「提案：小学校４年電気教材のとりあげ方」波多野誼余夫、荒井文也、若狭武と共著、『学習心理』、第４巻第３号、小学館、１９６３年6月、ｐｐ．９９－１０１．

「今後の研究のための提案:『電気』単元における目標の設定」『学習心理』、第4巻第4号、小学館、1963年7月、pp. 95-99

「教育心理学における認識の問題（その２）:数量化の問題」、１９６３年７月、日本教育心理学会第５回総会発表

「『道徳』指導過程の研究：指導による内面化の過程」、沢田慶輔、和田三郎と共著、『中学教育』、第８巻第４号、小学館、１９６３年7月、ｐｐ．８８－９０．

「アメリカ心理学から見たソビエト心理学」波多野完治と共著『中学教育』第8巻第5号、小学館、1963年8月. pp. 90-99.

「授業を動かす学級の人間関係:授業にみる学級の問題点」『学習心理』、第4巻第6号、小学館、1963年9月、pp. 48-53.

「プログラム学習の原理3」波多野誼余夫、久原恵子共著、『学習心理』、第4巻第8号、小学館、1963年11月、pp. 114-117.

１９６４年

「海外教育研究;『外国語での思考』の心理」『学習心理』、第4巻第　号、小学館、1964年3月、pp. 88-90.

「教材映画とモデル化」、『視聴覚教育』、第１８巻第３号、１９６４年３月、ｐｐ．１６－１９．

「海外教育研究:教育学的実験の方法」『学習心理』、第5巻第　号、小学館、１９６４年５月、ｐｐ．９７－１０１．

「職業観への影響」、足立自朗、池内　一共著、『テレビの児童に及ぼす影響』、依田　新　編著、第Ｉ部第６章、東京大学出版会、１９６４年５月、ｐｐ．６５－８３．

翻訳「新しい『科学的』修辞学：Ｎ．マコビー」、「説得に対する感じ易さの一要因としてのパーソナリティ：Ｉ．Ｌ．ジャニス」、『コミュニケーションの心理学』波多野完治監修、第4章、第5章、誠信書房、1964年9月、pp. 49-74.

翻訳「先生は悪魔だ：セラピストのカタルシスの効果?」、「友人関係を脱却するところから治療ははじまった」、『カウンセリングと心理療法』S. W. スタンダール、R. J. コルニシ編、沢田慶輔監訳、第9章、第11章、国土社、1964年10月、ｐｐ．２２２－２４７，２６４－２８４．

「競争と共同について」滝沢武久、柴田義松編著、『子どもが自立する時』、誠信書房、1964年11月、pp. 114-130.

１９６５年

「『道徳』授業過程の理論的研究、指導過程を解明する手がかり」、「指導による内面化の過程」、沢田慶輔編著『道徳の授業研究』、第１章、第４章、国土社、１９６５年５月、ｐｐ．５－１７．５０－５４．

１９６７年

"Modeling and Educational Process: A Theoretical Exploration." The University of Illinois Graduate School, Ph.D. Dissertation, June 1967. Unpublished; Author, pp. 311.

"Curriculum Development and Experimental Research" Coauthor with Jason Millman. The University of Illinois Curriculum Laboratory Working Paper, June 1967.

１９６８年

「海外の数学教育 I.アメリカの数学教育」黒田孝郎、赤摂也、東 洋編『教育学全集６、論理と数学』、小学館、１９６８年４月、ｐｐ．２２６－２４２.

１９６９年

「教育の近代化と教材映画：再びモデル化をめぐって」『視聴覚教育』、第23巻第8号、日本映画教育協会、１９６９年８月、ｐｐ．３５－３８.

「心理学と社会問題：Psychologists for Social Action (PSA) について」『教育心理学研究』、第１７巻第３号、１９６９年９月、ｐｐ．１８５－１８７.

「書評:Furth, H.G. Piaget and Knowledge. 1969 Prentice Hall.」『教育心理学研究』、第１７巻第３号、１９６９年９月、ｐｐ．６０－６２.

「『英語』を『わかる』ということ」『英語教育』、第91号、三省堂、1969年11月、pp. ４－８.

「子どもの思考の深まり方の特質」『社会科教育』、第64号、明治図書、1969年12月、pp. 17-20.

１９７０年

「子どもの学習動機とその指導」『埼玉教育』、埼玉県教育センター、1970年9月、pp. 2-5.

「教授＝学習過程におけるモデル」、『初等理科教育』、第４巻第１０号、日本初等理科教育研究会編、初教出版、１９７０年１０月、ｐｐ．６－９.

「学習理論１２講、その７、知識の伝達：オーズベルの理論」、『総合教育技術』、第２５巻第９号、小学館、１９７０年１０月、ｐｐ．　－　.

「書評：ルビンシュティン著、内藤耕次郎・木村正一訳『心理学』上下、青木書店」、『読書の友』、第４０２号、１９７０年１２月７日、第２面

１９７１年

「教育のシステム化」坂元 昂 編『現代社会における教育工学』、大日本図書、1971年1月、ｐｐ．５７－９２.

「コミュニケーションと言語機能」、藤永　保、村石昭三、斎賀久敬編、『幼児教育全集　４、言語と数』、小学館、１９７１年４月、ｐｐ．９８－１２０.

「学生たちを動かした『教育学のすすめ』」、『斎藤喜博全集、月報ＸＶＩＩ』、第１５－１巻、国土社、１９７１年８月、ｐｐ．４－６.

「幼児の外国語学習と思考」、『英語教育』、第２０巻第６号、大修館、1971年9月、ｐｐ．２－４，７.

「外国における子どもの勤労：印象記　アメリカ」、『道徳教育』、第１３１号、明治図書、１９７１年１１月、ｐｐ．１９－２１.

１９７２年

「客観的映像と主観的映像」、『視聴覚教育』、第２６巻第１号、日本映画教育協会、１９７２年１月、ｐｐ．４６－４９.

「学習意欲のシステム化を考える」、『授業研究』、第101号、明治図書、１９７２年２月、ｐｐ．１７－２２.

「心理学研究室めぐり:イリノイ大学」『教育心理』、第２０巻第４号、日本文化科学社、１９７２年４月、ｐｐ．７０－７１.

「抽象と具体：概念形成研究によせて」、日本児童研究所編『児童心理学の進歩、１９７２年版』、金子書房、１９７２年５月、ｐｐ．２９７－３３７.

「放送教育に主体性を」『放送教育』、第２７巻第３号、日本放送教育協会、１９７２年６月、ｐｐ．５０－５２.

「『教授学』と教育心理学」、『斎藤喜博の個人雑誌　開く』、第２集、明治図書、１９７２年１０月、ｐｐ．３８－５６.

「人間の能力についての楽観論と悲観論」『教育学研究』、第３９巻第４号、日本教育学会、１９７２年１２月、ｐｐ．２８９－２９６.

「『ゆさぶり』概念の検討」、斎藤喜博・柴田義松・稲垣忠彦編『教授学研究　３』、国土社、１９７２年１２月、ｐｐ．２４－５０.

１９７３年

「教育機器と教師と授業観」『教育』、第286号、国土社、1973年2月、pp. ２３－３１.

「教授学と教育心理学：その目的と方法をめぐって」、『教育展望』、第１９３号、教育調査研究所、１９７３年3月、ｐｐ．７７－８０.

「書評：『ことばの獲得：発達心理言語学入門』、D. マクニール著、佐藤方哉、松島恵子、神尾昭雄訳、大修館、１９７２年」、『英語教育』、第　巻第　号、大修館、１９７３年.

「教育心理学のひとつの課題」、『聖教新聞』、１９７３年８月９日第５面

「授業と能力観」、『教育と医学』第244号、教育と医学の会、慶応通信、1973年10月、pp. 28-35.　翻訳「イメージ的思考の水準、操作と構造」、L.B. イッテルソン『ソビエト心理学研究』、第１６号、ソビエト心理学研究会、三友社、１９７３年１０月、ｐｐ．２９－３１.

翻訳「能力の理解への人格的接近」、K. プラトノフ、『ソビエト心理学研究』、第１６号、ソビエト心理学研究会、三友社、１９７３年１０月、ｐｐ．３２－３４.

「教授学と心理学：駒林さんの『私の注文』を読んで」、『教育展望』、第19巻 第12号、教育調査研究所、１９７３年１１月、ｐｐ．６１－６４，５８.

１９７４年

「『質問』の機能についてのメモ」、教育方法 Research Memorundom I. 東京大学教育学部教育方法学研究室、１９７４年1月、ｐｐ．９

「カリキュラム開発における『羅生門』的接近」『毎日新聞』、1974年5月4日夕刊第5面

「ゆさぶりと視点」斎藤喜博・柴田義松・稲垣忠彦編『教授学研究 4』、国土社、1974年6月、ｐｐ．５４－９５.

「実践のための授業理論を目ざして」『授業研究』、第132号、明治図書、1974年8月、pp. 9-12.

「現代教科学習の基礎理論、1．現代の学習理論」 木原健太郎編著、『教科教育の理論』、第一法規、１９７４年９月、ｐｐ．１９３－２２３.

１９７５年

「書評：　教育実践を見る確かな目、松本陽一著『実践現場への手紙』、１９７４年１１月、明治図書」、『内外教育』、第2624号、時事通信社、1975年1月24日、p. 15.

著書『授業の心理学をめざして』教授学叢書　５、国土社、１９７５年1月、２６０頁

「人間のための心理学　１．　子供は『操り人形』？」、『総合教育技術』、第２９巻第１３号、小学館、１９７５年1月、ｐｐ．１３８－１３９.

「人間のための心理学　２．　『これまで』と『これから』」、『総合教育技術』、第２９巻１４号、小学館、１９７５年2月、ｐｐ／１３６－１３７.

「人間のための心理学　３．　質問をしてみると・・・。」、『総合教育技術』、第２９巻１５号、小学館、１９７５年3月、ｐｐ．１１６－１１７.

「漢字の教授＝学習：誤字分析からの接近」、松田弥生、志村正子と共著、東京大学教育学部紀要第１４巻、１９７５年3月、ｐｐ．２２１－２５１.

「子供の可能性」『内外教育』、第2656号、時事通信社、１９７５年５月２７日、ｐ．１.

「教育と学習理論：教育の『ため』の学習理論をめざして」、『教育学研究』、第42巻第2号、日本教育学会、１９７５年6月、ｐｐ．１０４－１１５

「『発問の機能』の発生的研究を」『授業研究』、第143号、明治図書、1975年6月、pp. 5-10.

「教授学における構造・機能・目的」、斎藤喜博・柴田義松・稲垣忠彦・吉田章宏編　『教授学研究　５』、国土社、１９７５年7月、ｐｐ．７９－８９.

「『教授学研究の会』一年の歩み」、同上、ｐｐ．３２２－３３３.

「学力と教授法」、清水義弘監修、藤永保・麻生誠編著『能力・適性・選抜と教育』、第一法規、１９７５年７月、第７章、ｐｐ．２４５－２７４.

「これからの授業研究とこれからの心理学」、『教育学全集　４　教授と学習（増補版）』、「補説」、小学館、１９７５年１０月、ｐｐ．１１－１６.

「教育の評価はどうあるべきか：教育評価の心理学、何のための教育評価か」、伊藤隆二・坂野登・鑪幹八郎編著『教育心理学を学ぶ』有斐閣、1975年11月、第11章、pp. 245-259.

１９７６年

「発達の概念」、「発達観の成立」、「生得説の歴史とその意義」、「経験説の歴史とその意義」、「生得説と経験説の統合」、「テストの信頼性と妥当性」、「客観テストと論文テスト」、中内敏夫・堀尾輝久・吉田章宏　編集代表『現代教育学の基礎知識（１）』、有斐閣、１９７６年３月、ｐｐ．５６－６３．２７０－２７１．

「『わかる授業』の心理学」、『児童心理』、第30巻第4号、金子書房、1976年4月、pp. 23-35.

「授業研究ノート　１：『授業を研究する』ということ　１」、『授業研究』、第１５４号、明治図書、１９７６年４月、ｐｐ．１０８－１１８．

「授業研究ノート　２：『授業を研究する』ということ　２」、『授業研究』、第１５５号、明治図書、１９７６年５月、ｐｐ．１０９－１１８．

「授業研究ノート　３：『授業を研究する』ということ　３」、『授業研究』、第１５７号、明治図書、１９７６年６月、ｐｐ．１０８－１１８．

「授業研究ノート　４：授業をとらえる人とそのとらえ方　１」、『授業研究』、第１５８号、明治図書、１９７６年７月、ｐｐ．１０７－１１７．

「授業研究ノート　５：授業をとらえる人とそのとらえ方　２」、『授業研究』、第１６０号、明治図書、１９７６年８月、ｐｐ．１０６－１１８．

「思考におけるイメージの役割と表現体系」、藤永保編著『思考心理学』、大日本図書、１９７６年８月、ｐｐ．１５７－１７５．３５６－３５９．

「授業研究ノート　６：授業をとらえる人とそのとらえ方　３」、『授業研究』、第１６１号、明治図書、１９７６年９月、ｐｐ．１０７－１１８．

「授業研究ノート　７：『ひと』を『見る力』と『もの』を『見る力』」、『授業研究』、第１６２号、明治図書、１９７６年１０月、ｐｐ．１１１－１２６．

「授業研究ノート　８：授業研究における『ひと』の認識」、『授業研究』、第１６３号、明治図書、１９７６年１１月、ｐｐ．１０６－１１８．

「授業研究ノート　９：実践者の文化と研究者の文化」、『授業研究』、第１６４号、明治図書、１９７６年１２月、ｐｐ．１０７－１１８．

１９７７年

「授業研究ノート１０：『よい授業』をめぐって」、『授業研究』、第１６５号、明治図書、１９７７年１月、ｐｐ．１０８－１１８．

「授業研究ノート１１：『ゆさぶり』をめぐって」、『授業研究』、第１６６号、明治図書、１９７７年２月、ｐｐ．１０６－１１８．

「授業研究ノート１２：『ゆさぶり』をめぐってーーおわりに」、『授業研究』、第167号、明治図書、１９７７年３月、ｐｐ．１０５－１１６．

「発達の世界」、中内敏夫編『教育学概論』、有斐閣双書、有斐閣、１９７７年３月、ｐｐ．５－１５．

「『数学をつくる』授業をめざして」、斎藤喜博・柴田義松・稲垣忠彦・吉田章宏編『教授学研究　７』、国土社、１９７７年７月、ｐｐ．４８－７３。

「一年のあゆみ」、同上、ｐｐ．２６８－２７６．

著書『授業を研究するまえに』、明治図書、１９７７年９月、２６４頁.

「”普段とちがう”研究授業」、『総合教育技術』、小学館、１９７８年１０月号、p. ４８．

「オースベル博士の横顔」『総合教育技術』、小学館、1978年12月号、pp. 100-101.

１９７９年

「『授業』の本質から見た視聴覚教育」、『視聴覚教育百科 3』、基礎編、第一法規、1979年2月

「思考」、「洞察」、「意味受容学習」、『新・教育事典』、平凡社、１９７９年４月、「宇佐美寛さんにおたずねしたいこと」、『現代教育科学』、1979年4月号、pp. 72-77.

「教授学研究の会の研究アプローチ：人間科学としての『教授学』」、斎藤喜博・柴田義松・稲垣忠彦・吉田章宏編『教授学研究　９』、国土社、1979年5月、ｐｐ．８－２６．

「学力の『パワーズ・オブ・テン』へのスケッチ：『学力のとらえ方』をめぐって」、坂野登・吉田章宏編著『能力・学力・人格』講座『日本の学力』、第3巻、日本標準、1979年7月、pp. 383-403.　「歌劇『道化師』にちなむパロディー：『疑う』と『信ずる』－－『ユサブリ』実践の創造（上）」、『現代教育科学』、明治図書、１９７９年７月号、ｐｐ．８３

－１０３．　「歌劇『道化師』にちなむパロディー：『疑う』と『信ずる』－－『ユサブリ』実践の創造（中）」、『現代教育科学』、明治図書、１９７９年８月号、ｐｐ．８５－１０７．　「歌劇『道化師』にちなむパロディー：『疑う』と『信ずる』－－『ユサブリ』実践の創造（下）」、『現代教育科学』、明治図書、１９７９年９月号、ｐｐ．９４－１０６．　「『授業』の質的転換を考える：授業のなかでの　”ゆさぶり”とは何か」、『総合教育技術』、小学館、１９７９年８月号、ｐｐ．４６－４９．

「少年期の感情と表現」、岩波講座『子どもの発達と教育　５』、岩波書店、1979年9月、ｐｐ．１６９－２０８．

１９８０年

「『わかる』の心理学」『児童心理』、第34巻第5号、金子書房、1980年5月、pp. 1-19.

「研究ノート：角か、角でないか」、『朝日新聞』、１９８０年７月８日夕刊第５面

「森の出口はどこか」、斎藤喜博・柴田義松・稲垣忠彦・吉田章宏編『教授学研究１０』、国土社、１９８０年８月、ｐｐ．８－５６．

「『児童心理学の進歩』にみられる動向」、肥田野直編『現代心理学の動向、１９４６－１９８０』川島書店、１９８０年１１月、ｐｐ．９０－９８．

１９８１年

「一生の課題を与えられて」、『事実と創造』Ｎｏ．６　教授学研究の会編、一茎書房、１９８１年１１月号、ｐｐ．１４－１６．

「恥と誇り」、『事実と創造』Ｎｏ.７　教授学研究の会編、一茎書房、1981年12月号、p. 1.

翻訳 ジョン・ホルト著『子ども達はどうつまずくか』、志村正子・吉池安恵と共訳・監訳、評論社、１９８１年１２月

１９８２年

「ふたつの『世界』とひとつの夢」、『事実と創造』Ｎｏ．８　教授学研究の会編、一茎書房、１９８２年１月号、ｐｐ．４５－５１．

「米国における現象学的心理学のセンター：ＤＵＱＵＥＳＮＥ　ＵＮＩＶＥＲＳＩＴＹ」、『サイコロジー』Ｎｏ．２４．サイエンス社、１９８２年３月号、ｐｐ．６６－６７．

「子どもの発達における偶然と必然」、竹内啓編『偶然と必然』、東京大学出版会、１９８２年３月、ｐｐ．１６１－１８４．

翻訳 エス・エリ・ルビンシュティン著『一般心理学の基礎　１』『一般心理学の基礎　２』、(全4巻のうち)、秋元春朝、秋山道彦、足立自朗、天野清、佐藤芳男、松野豊と共訳、明治図書、１９８２年４月

「私の幼児教育論：子どもへの敬意」、『幼児の教育』、第81巻第7号、1982年7月、pp. 13-25.

「『良い教材』と『教師の論理』」、『教室の窓 小学校』No. 318. 東京書籍、1982年7・8月号、pp. 7.　「『みる』と『みえる』の創造：斎藤喜博の自我と世界に学ぶ」、教授学研究の会編『第ＩＩ期　教授学研究　２』、国土社、１９８２年８月、ｐｐ．２１－４２．

１９８３年

編集・共著 『授業』東 洋監修「教育心理学講座　３」、宮原修、中田基昭、宮崎清孝、藤田幹夫、大沼徹、武田常男と共著、朝倉書店、１９８３年７月、ｐｐ．２１５．

「授業における『心理学的認識』」『教育展望』、第310号、教育調査研究所、１９８３年４月、ｐｐ．１４－２１．

「『学ぶ』と『教える』」、『講座 現代の心理学 3』、小学館、1983年6月、pp. 229-297.

「発達段階と教育」、「子どもの可能性」、岡津守彦監修『教育課程事典、総論編』、小学館、１９８３年１２月、ｐｐ．２５９－２６２、２８０－２８１．

１９８４年

「子どもの学力を高める：教育心理学の立場から」、『児童心理』、金子書房、１９８４年１月号、ｐｐ．２８－３７．

「授業理解を深め豊かにする一視点：授業における事実と意味」、『教育展望』、教育調査研究所、１９８４年２月・３月合併号、ｐｐ．１６－２２．

「解説：斎藤喜博の世界－－その豊かさに学ぶ一解釈」、『第II期　斎藤喜博全集　３』、国土社、１９８４年４月、ｐｐ．４１５－４２３．

翻訳：　Ｄ．Ｐ．オースベル・Ｆ．Ｇ．ロビンソン著『教室学習の心理学』、松田弥生と共訳、黎明書房、１９８４年６月、ｐｐ．９３２．

「<思いやりの心>をどう教え育てるか」『総合教育技術』、小学館、1984年9月号, pp. 52-55.　翻訳：　エス・エリ・ルビンシュティン著『一般心理学の基礎　3』(全4巻のうち)、秋元春朝、秋山道彦、足立自朗、天野清、佐藤芳男、松野豊と共訳、明治図書、1984年10月、pp. 366.

「発達理論」、鹿取広人編『発達ＩＩ:個体発生』　現代基礎心理学　第10巻　第9章、
東京大学出版会、１９８４年１０月、ｐｐ．２５３－２７６.

「教える　と　愛する」、著者代表　平野竜一『愛と人生』、東京大学出版会、1984年12月、ｐｐ．３３３－３６８.

１９８５年

「教えるということ」、稲垣忠彦・柴田義松・吉田章宏編著『教育の原理ＩＩ』第１章、東京大学出版会、１９８５年３月、ｐｐ．１１－４６.

「数学を教える」同上、第３章、ｐｐ．７７－１０８.

「読書案内三十選」同上、ｐｐ．２６９－２７４.

「教師にとって脳の知識は必要か：授業の現象学をめざす立場から」、日本教育心理学会第２６回総会準備委員会シンポジウム：教育心理学における方法論の問題(1)、『教育心理学年報』第24集、1984年度、1985年3月刊、日本教育心理学会編集、ｐｐ．７１－７２.

「子どもの『関心・態度』を育てるものは何か:訳書『教室学習の心理学』の紹介を兼ねて」、『教育展望』、第３１巻第５号、１９８５年６月号、ｐｐ．１２－１９.

１９８６年

「授業における否定の意味」　『教育学研究』、日本教育学会、第５３巻第１号、
１９８６年３月、ｐｐ．６０－６２.

「学ぶとは、教えるとは？：　心理学の立場から」、『教育と医学』、教育と医学の会、第３４巻第４号、１９８６年４月、ｐｐ．１４－１９.

「『知識』と『理解』：『知る』ことと『わかる』こと」、『指導と評価』、
日本教育評価研究会、第３２巻第６号、１９８６年６月、ｐｐ．４－８.

「現象学的心理学の子ども理解：赤ちゃんの誕生体験」、小林　登、小嶋謙四郎、原ひろ子、宮沢康人編　『新しい子ども学　第３巻：子どもとは』、海鳴社、1986年7月、pp. 201-229.

「子どもを理解するということ」、『教育技術読本』、教育開発研究所、1986年9月、pp. 24-29.　「授業の完全理論への道」、『学校教育学研究』、日本学校教育学会、第１巻第１号、１９８６年９月、ｐｐ．８６－９６.

翻訳: エス・エリ・ルビンシュティン著『一般心理学の基礎　4』(全4巻のうち)、秋元春朝、秋山道彦、足立自朗、天野清、佐藤芳男、松野豊と共訳、明治図書、1986年7月、pp. ３６０.

「訳者あとがき」同上書、ｐｐ．２７５－２８７.

「知的能力をどうとらえるか:教育から」『こころの科学』、日本評論社、１９８６年１０月、ｐｐ．５９－６６.

１９８７年

『授業者としての成長を生む授業体験:その構造と意味の現象学的解明:』、昭和60･61年度科学研究費補助金一般研究C,報告書　東京大学教育学部学校教育学科、１９８７年３月、ｐｐ．２３０.

「学ぶ人と教える人との出会い」、『岩波講座　教育の方法　１　学ぶことと教えること』、岩波書店、1987年4月、ｐｐ．２３７－２７７.

編集：『学ぶと教えるの現象学研究＊』、藤田幹夫、榎沢良彦、守屋　淳、大沼　徹、鶴田清司、浅沼　茂、中田基昭の７氏が執筆、東京大学教育学部教育方法学研究室、１９８７年６月、ｐｐ．１５２.

著書：『学ぶと教える：授業の現象学への道』、海鳴社、１９８７年９月、３６４頁.

「異文化理解と他者理解」　東京学芸大学海外子女教育　センター編集発行　『海外子女教育研究』　第８９号、１９８７年１１月１日、ｐ．１.

１９８８年

「オースベル」「知識」「発問」「有意味的受容学習」、東洋・梅本堯夫・芝祐順・梶田叡一編
『現代教育評価事典』金子書房、４９６－４９８、５７２－５７３.

「ＩＱ」「教育学」「教育心理学」「偏差値２」　見田宗介・栗原彬・田中義久編　『社会学事典』弘文堂　１９８８年２月ｐｐ．３－４、２０２、２０３、８００.

「『教育心理学研究』の働きを問う」　(アンケートのまとめ)　日本教育心理学会編集　『教育心理学年報』第２７集　１９８７年度、１９８８年3月、ｐｐ．２１－２４。

「『教育は共育である』という思い」教育調査研究所『教育展望』1988年3月号、pp. 4-8.

「教育の病い:『嘘』の多様な意味を中心に」教育と医学の会編『教育と医学』慶応通信　１９８８年４月号　ｐｐ．４－１０．

「個性とは何か:教育に学ぶ一考察」金井達蔵・渋谷憲一編　『別冊　指導と評価（個性を生かす指導と　評価）』図書文化、１９８８年９月、ｐｐ．３１－３８．

On the Why-What Phenomenon: Why and what why-questions and what-questions on a character's behaviors and/or experiences do or don't help in teaching literary works of art?--A phenomenological- psychological explication. (Author). pp.10. A paper presented at the XXIV International Congress of Psychology, Sydney, Australia, on Sept. 1. 1988.

１９８９年

「『魅力ある授業』を解明する一つの試み」『千葉教育』千葉県総合教育センター No. 371 1989年1月 pp. 8-12.

「教師と子どもの授業体験の現象学の立場から」日本教育心理学会第３０回総会準備委員会企画シンポジウム「授業研究の動向と課題」での発表『教育心理学年報第２８集』日本教育心理学会編集 1989年3月発行 pp. 9-10.

「授業体験の解明」　同上総会　研究委員会企画シンポジウム「教師の成長を考える」での発表『教育心理学年報第２８集』日本教育心理学会編集 1989年3月発行 pp. 47-48.

編集:『学ぶ と 教える の 現象学研究 **』東京大学 教育学部 学校教育学科 教育方法学研究室発行　１９８９年３月　pp. 163. 藤田幹夫、榎沢良彦、藤田千鶴子、守屋淳、大沼徹、斎藤孝、生越達 の７名が執筆寄稿。

「教師として子どもをわかるということ」（加筆修正済みの講演記録）『学校教育研究センター年報』　第４号　上越教育大学　学校教育研究センター　1989年3月 pp. 62-89.

"Beyond the Traditional Concept of Concepts:A Set-Theoretical and Phenomenological Case Study of the 'Value'Concept in 'Capital'" in Psychologia -An Intrernational Journal of Psychology in the Orient, Vol. XXXII. No.1 March 1989. pp.1-15.

「『視聴覚教育』の進歩に深く豊かな哲学を一随想・５００号に寄せて」『視聴覚教育』創刊５００号記念　日本視聴覚教育協会　1989年6月 Vol. 43. No. 6. pp. 34-35.

「授業における『つまずき』の意味」『学校教育』広島大学付属小学校 学校教育研究会 No. 864. 1989年7月 pp. 6-11.

"S.L.Rubinstein and Phenomenology: A Japanese Perspective" A paper presented at the Eighth International Human Science Research Conference, University of Aarhus, Denmark, on August 19, 1989.

"Interpretations of Qualitative Research in Japan: A Ten Minutes' Presentation" A presentaitonin the Panel titled "Qualitaive Research in Different Countries" at the Conference same as above, on August 22, 1989.

"On the Impossibility of the Perfectrly Empirical-and-Practical Theory of Teaching" A paper present-ed at the Plenary Session IV of the X-th Congress World Association for Educational Research, Charles University Prague, Czechoslovakia, on August 30th, 1989.

翻訳:『現象学的心理学』E. キーン著 宮崎清孝と共訳、東京大学出版会、1989年9月、pp. 324.

１９９０年

「『教育心理学』に期待する一つの遠未来像:僻地にある『迷える小羊』から見たその眺望」『教育心理学年報第２９集 1989年度』日本教育心理学会 1990年3月刊、pp. 142-153.

「解釈学的教育学」、「現象学的教育学」細谷俊夫・奥田真丈・河野重男・今野喜清 編集『新教育学大事典』第一法規出版 1990年 第1巻 pp. 306-307、第3巻 pp. 71-72.

"On the significance of researches by teachers on teaching." A 30 minutes presentation in English given at the Third Japanese-Soviet Conference on the Pedagogical Researches. May 17, 1990. The Academy of Pedagogical Sciences of the USSR. Moscow, USSR. [ロシヤ語雑誌『ソヴィエツカヤ・ペダゴキカ』1990年 11号 pp.148-150 に引用、簡単な紹介がなされている。]

「授業と対話」(加筆修正ずみの講演記録)『講演集』富山大学 教育学部 付属小学校 1990年5月 pp. 1-20

「『真の授業者をめざして』のすすめ」武田常夫著『真の授業者をめざして』国土社 1990年7月 pp. i-iv

「『個性の教育』とは何か？」公開シンポジウム『個性の教育を考える』日本教育心理学会第３２回総会　１９９０年１０月１３日　大阪大学

「多様化を通しての個性化：ひとつの視点」　第三回　日ソ教育学セミナー『教育における個別化と個性の教育』

１９９０年１１月２日　東京大学山上会館
「解説」『波多野完治全集　９「ことばの心理と教育」』 小学館 １９９０年１１月　ｐｐ．３４９－３７３．
翻訳：　アメディオ・ジオルジ「現象学的心理学の今日的諸問題」、『人間性心理学研究』、日本人間性心理学会、第８号　１９９０年１２月　ｐｐ．３－１５．

１９９１年

「人間教育としての視聴覚教育」『視聴覚教育』第45巻 第1号 日本視聴覚教育協会 1991年1月 pp. 36-37.
「『個性の教育』とは何か？」『教育心理学年報 第３０集 1990年度』日本教育心理学会編集 1991年3月、6-7ページ
"On the self-education of Japanese teachers : 'How have Japanese teachers been improving their own teaching practices?'" March 22, 1991. One hour lecture given at the Lecture Forum sponsored by Philajames and MPSSA held at Hotel Nikko, Manila Garden, Philippine.

著書：『教育の方法』　放送大学教育振興会　１９９１年3月　２３５頁

編集:『学ぶと教えるの現象学研究***』東京大学教育学部学校教育学科 教育方法学研究室発行 1991年3月 pp. 179.
榎沢良彦、生越達、斎藤孝、守屋淳　の４名が執筆寄稿。
「多様化を通しての個性化：ひとつの視点」　『教育のペレストロイカ：教育のおける個別化と個性化をめぐって』川野辺敏編　新読書社　1991年4月　ｐｐ．１－３５．
「子どもと教師：子どもと教師の相互理解の心理学への道」　藤永保　編
『心理学のすすめ』筑摩書房、１９９１年１０月、ｐｐ．２１３－２３８．
Speech: "Japanese University Education as Personally Lived: Its Reality, Dream and Challenge as Personally Perceived." Oct.9th, 1991. One hour presentation at The Interamerican Congress of Education. The University of Valle de Mexico. Mexico City.

１９９２年

「一即多、多即一：個性化と国際化への視聴覚教育」『視聴覚教育』日本視聴覚教育協会　第４６巻第１号
１９９２年1月　ｐｐ．３２－３３
"On the Why-What Phenomenon: A phenomenological explication of the art of asking questions" Human Studies, vol.15, no.1. Jan. 1992, Kluwer Academic Publishers, pp. 35-46.
「『学ぶ』ということ」『学習評価研究』ＣＳＬ学習評価研究所　第3巻1号 1992年6月　ｐｐ．３４－４７ページ
「教育とメデイアにおける不易と流行」『放送教育』日本放送教育協会 第47巻5号 1992年8月　pp. 11-13
講演:「教育における『見る』と『見える』」第３８回（平成４年度）全国視聴覚教育研究大会報告、特別講演、
『視聴覚教育時報』No. 452. 全国視聴覚教育連盟、1992年12月、3-10ページ
講演:『若き教育心理学徒に託する私の願い』１９９２年、１０月２日(金)午前9時45分~10時30分、
日本教育心理学会大34回総会、信州大学教育学部、司会金澤妙子(金城学院大学)
編集：『学ぶと教えるの現象学研究 四』東京大学教育学部 学校教育学科 教育方法学研究室発行 1992年3月
pp. 237. 生越達、馬場京子、遠藤司、小森健太郎、斎藤孝、榎沢良彦、大沼良子の７名が執筆　編集は中田基昭と共同。

１９９３年

"On the Impossibility of the Perfectly Empirical-and-Practical Theory of Teaching" Bulletin of The Faculty of Education, The University of Tokyo, March 1993. pp.257-264.
「因果性のパラダイムを超えて」研究委員会企画シンポジウム『教育心理学における因果関係の同定』教育心理学年報、第32集、１９９２年度、日本教育心理学会編集、１９９３年３月、１８－１９ページ
書評:「中田基昭著『授業の現象学』東京大学出版会発行」『視聴覚教育』日本視聴覚教育協会　第４７巻　第４号、
１９９３年４月 ページ
「教育メディアの多様化」、『視聴覚教育』、日本視聴覚教育協会、第４７巻第８号、1993年8月、38-39ページ
「授業と対話」、『教育フォーラム』、第13号、金子書房、1993年12月、108-125ページ
編集:『学ぶと教えるの現象学研究 五』東京大学教育学部学校教育学科 教育方法学研究室発行 1993年3月 pp. 125. 生越達、遠藤司、鷲尾善典、榎沢良彦、守屋淳の５名が執筆寄稿。　編集は中田基昭と共同。

１９９４年

「健康教育を『学問する』:教育研究の視座から」『健康教室』第45巻第1号、1994年1月、12-17頁「『教育と発育の相互作用』

について」　東郷正美代表『教育と発育の相互作用についての研究』［科学研究費補助金(総合研究 A)研究成果報告書]、1994年3月、65-76ページ

１９９５年

書評：アラン・W・ウィッカー著、安藤延男監訳、『生態学的心理学入門』. 九州大学出版会. 「教育学研究」：６２巻, ２号, ４４～４５頁, １９９５年.

著書：「教育の心理：多と一の交響」、放送大学教育振興会　１９９５年３月３２１頁.

編集:『学ぶと教えるの現象学研究 六』東京大学教育学部学校教育学科 学校教育学研究室発行 1995年2月 pp. 156. 遠藤司、田端健人、打越さく良、藤川大祐、榎沢良彦の５名が執筆。編集は中田基昭と共同。

１９９６年

著書：『子どもと出会う』. 岩波書店. １９９６年９月. ２１１頁

「子どもに学ぶということ」柴田義松編『新・教育原理』第６章. 有斐閣:１２５～１４８頁, １９９６年１月.

「出来事の現象学的心理学：犯罪の被害者・犠牲者となる体験」 畠瀬稔編『人間性心理学とは何か』６章. 大日本図書１９２～２２４頁. １９９６年３月.

「人間・西郷竹彦の豊かな世界」『西郷竹彦文芸・教育全集 5 人間観・世界観の教育』. 恒文社:497~505頁, 1996年

「多様性を通じての統合性：彷徨と遍歴の跡から」『岩手大学　教育学部学会年報』：第１１号, ４９～５９頁、１９９６年.

「求む、新世紀の映像理論：映画理論をふまえそれを超えるものは」『日本視聴覚・放送教育学会　第３回総会大会発表論文集』：１２６～１２７頁, １９９６年.

「展望：多様性を通じての統合性を求める：映画理論の『新しい傾向』に学ぶ」、『放送教育 メディア・学習・情報』、第５１巻９号、１９９６年 １１～１３頁.

「私のことば:教員養成教育に『劇映画』教室を!」、『視聴覚教育時報』、全国視聴覚教育連盟:第500号, 1996年, 1頁.

１９９７年

「『実践と研究をつなぐ』を生きる：授業・実践・研究に即して」『女子体育』. 日本女子体育連盟. 第39巻第1号 １９９７年１月、４～７頁

「教育を通して『子どもと出会う』」『事実と創造』. 一莖書房. 5月号. 192号:2~4頁, 1997年5月

１９９８年

１９９９年

「解説：校長の仕事、その構造と意味－－根田幸悦校長の苦闘の物語に学ぶ」根田幸悦著『新米校長失敗物語：理想の教育を求めて』. 一莖書房. 241~262頁. 1999年5月.

「特別寄稿　視聴覚教育という言葉の豊かな含蓄：時代遅れの判官びいき」、『視聴覚教育』、日本視聴覚教育協会、第５３巻第５号、１２～２３頁、１９９９年５月

A Phenomenological Explication of the Lived Worlds of Application System Engineers: a tiny attempt. A paper presented at 18th International Human Science Re-search Conference held at Sheffield University, United Kingdom, July 26th,1999.

「『敬愛する岡田章先生』への手紙」. 『前半ヨシ 後半ヨシ 合せてマチガイ:岡田章の軌跡』（５４２頁）. 岡田章先生追悼集刊行会. １９９９年７月. １８－４１頁.

「無私の心の教え」日本経済新聞. １９９９年７月１５日朝刊「交遊抄」欄. 第４０面.

「視聴覚教育という言葉の豊かな含蓄」、日本教育メディア学会研究会論集、第2号、1999年7月19日. 1-10頁.

「解説　甦る斎藤喜博先生のお姿：四半世紀の録音を聴いて」　『斎藤喜博の合唱における呼吸・発声指導の実際』一莖書房. １９９９年. ７－１８頁.

翻訳：ベルント・ヤーガー著「自作農場から都市へ：教育の二つの基本概念」. 中田基昭編『学ぶと教えるの現象学研究 八』（１９９９年）東京大学大学院教育学研究科学校教育開発学コース発行. １９９９年９月. １－３３頁.

著書『ゆりかご に 学ぶ 教育の方法』一莖書房. １９９９年１２月. ２７０頁

２０００年

「生きる」私が選ぶ 子どもたちに見せたい映像 Part4.『視聴覚教育』第５４巻第３号、２０００年３月、１４頁

A Phenomenological Explication of the Lived Worlds of Application System Engineers:a tiny attempt. The Journal of Kawamura Gakuen Woman's University. Vol. 11 No. 1 2000年3月 pp,69-86.

「自殺の教育」.『教育と医学　特集　増えている自殺』５月号. 第４８巻. 第５号. 慶応義塾大学出版会. ６０－６７頁. ２０００年５月